

シンポジウム

2017年
1/22 (日)
13:30-16:00
(開場 13:00)

梅花女子大学所蔵
中井終子日記を通して探る vol.2

懐徳堂研究と女学生文化

会場：グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル
「The Lab.」2F アクティブスタジオ 参加無料 / 事前申込不要

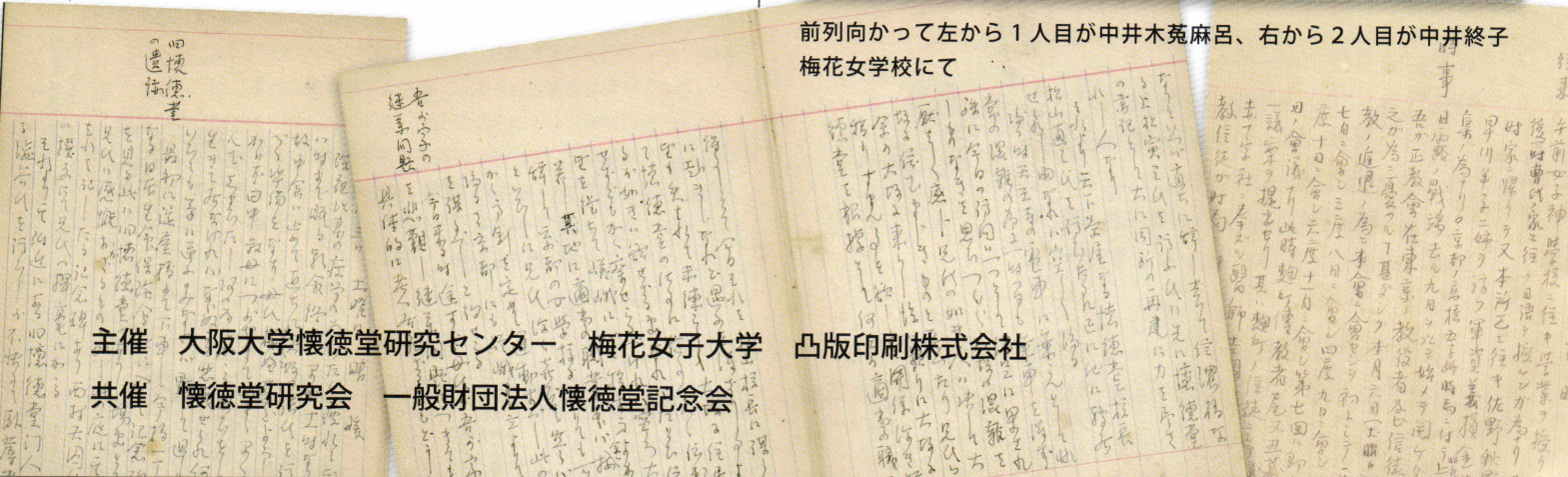
大阪において、江戸期より漢学の学問所として多くの門下生を輩出した懐徳堂。歴代に渡りその学主を務めた中井家の子孫中井終子^{しゅうこ}は、懐徳堂の再建に貢献した兄木菟麻呂^{つぐまる}と共に、梅花女学校の教員として女子教育に尽くしました。その終子が保管していた明治・大正期の貴重な写真や日記は、現在梅花女子大学に所蔵されています。今回資料のアーカイブ化の第二弾を実施。懐徳堂研究の新たな可能性と、終子たちが勤務した梅花の女学生文化の歴史をひも解きます。

プログラム

- 13:30 ご挨拶
大阪大学文学研究科
懐徳堂研究センター長 湯浅邦弘
- 13:40 懐徳堂顕彰運動と大阪人文会
島根大学教育学部 教授 竹田健二
- 14:45 中井終子日記を読む ～くずし字OCRのご紹介～
凸版印刷株式会社
- 15:15 梅花女子大学所蔵写真からひも解く女学生文化
梅花女子大学 文化表現学部 教授 好田由佳
- 15:45 質疑応答



前列向かって左から1人目が中井木菟麻呂、右から2人目が中井終子
梅花女学校にて



主催 大阪大学懐徳堂研究センター 梅花女子大学 凸版印刷株式会社
共催 懐徳堂研究会 一般財団法人懐徳堂記念会